

ドレッサージュホースに育てよう!

クイズの答え



まず先月号のクイズの答えです。2枚の写真のどちらの体勢で今後の調教を進めていくかという問題でした。私が選択する体勢は、《B》です。《A》のほうが馬が丸くなってハミを受けて動いているように見えて、馬術をされている方はこちらの体勢を選択するのが普通でしょう。もちろん、馬によってはこちらも正解ですが、オースミイレブン号（以下 OE 号）はバランスを前に崩しやすいため、《B》の体勢を採用することにしました。逆に、頭頸を上げて背を反ってしまうような馬の場合は《A》の体勢を採用します。この馬の特性を事前に示していなかったため、少し意地悪な問題となってしまいましたが、ある程度経験を積んだライダーは、どの馬でも《A》の体勢にしてしまう傾向があるので注意したいところです。

それでは、以下《B》の体勢にしながらどのように調教を進めていく予定かまとめてみたいと思います。

バランスと移行

最初にこの馬に乗った時に気付いたことは、バランスが前駆に掛かっているということです。一概には言えませんが、サラブレッドは乗用馬として生産された馬よりも、バランスが後駆に乗ってこないことが多いです。速く走るために、競走馬は全身を伸展させるように調教されてきています。そういった馬を、馬場馬術用馬として再調教するには、馬体を収縮させていかなくてはなりません。今回の OE 号も例外ではなく、典型的なサラブレッド体型で前進氣勢が旺盛ですが前のめりになり、馬体が長くなりやすい馬です。しかしながら、今後は収縮に向けてバランスを後駆へ移していくことが課題となりそうです。

では、バランスを後駆へ移そうとする場合、何をどうすれば良いのでしょうか？ 私はとにかく移行を繰り返します。主に実施する移行は、速歩から常歩です。この移行をする際に騎手が注意して行すべき2点は以下の通りです。

① 頭頸の位置は起きていること

まず、ハミに馬の体重が掛かっていない状態にするべきです。そのために頭頸を上げますが、その時にハミを受けて譲った体勢でなく鼻柱が前へ突き出すような体勢になったとしても構いません。ハミを受けたように丸くなって、低くなり体重がハミに掛かっている状態よりもはるかに良いです。

② 半減却を行いながらストライドを徐々に小さくする

騎手は馬の後駆を馬体下へ踏み込ませるように脚扶助に必要な分だけ使用し、拳はある程度前へ出て行く割合を抑えるように控え、安定させた騎座と連動させて前進しようとするパワーを馬体（後駆）に溜め込むように使います。

速歩から常歩への移行時のストライド イメージ図



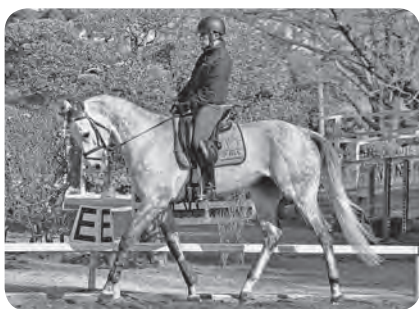
初めてこの移行を OE 号で行なった際、半減却が利かず常歩に移行できませんでした。騎手の出す半減却の扶助（脚からの前進、騎座と拳の静定）を無視して減却していかないことが多かったのです。減却した際に頭頸を低くして速くなっていく状態では、速歩から常歩への移行もできませんし、今後コレクション（収縮）をしていく前提になりません。

そこで、頭頸を上げてバランスを起し、後肢が踏み込みやすい体勢にし、半減却が機能しやすいようにします。速歩か

ら常歩に移行する時には、馬がただ減速していくのではなく、よりパワフルになるようにします。そこで、前進するためのパワーが前進するために使われるのではなく馬体に溜まってくると、そのパワーは弾発へと変化していきます。身体能力の高い馬は、このような半減却を使わなくても弾発を生むことができますが、サラブレッドや元々フラットな速歩をする馬には、このような半減却の使用で弾発を生み出させる必要があります。弾発が生まれる度合いは、それぞれの馬が生来もっている能力に関わります。

ここで大切なことは、拳を控える割合が強くなり過ぎないことです。拳で押さえつけると馬は前進氣勢を失います。こうなってしまうと、弾発となり得る前進氣勢を根本的に消してしまうことになるので注意が必要です。

今回は、今回のまとめと駈歩運動についても考えてみましょう。



▲体重がハミに掛かって前バランスになっている状態



▲バランスが起きて弾発が生まれてきている

PR

ウマに興味のある方であればどなたでも入会可能!!

ウマ科学会の主な活動

① 講演会や学術集会の開催

会員はウマに関する話題提供の場として自由に参加できます。

② 会誌の発行

「Journal of Equine Science」(英文・年4回)
「Hippophile (ヒポファイル)」(和文・年4回)
「馬の科学」JRA競走馬総合研究所刊行

③ 海外への学術渡航に対する支援

詳しくはHPをご参照下さい。

年会費
5,000円



《Journal of Equine Science》は、英文の学術論文集。国内外の馬科学の最新情報が本誌を通じて世界に発信されます。《Hippophile》は、馬文化や馬科学を読み物風に仕立ててお届けする和文雑誌。毎号、次のような内容で構成されています。

- 馬事往来
国内・国外を問わずあらゆる馬の話題を取り上げます。
- 総説
科学者による専門的な記事。馬の運動生理や疾患についてのトピックスです。
- 特別記事
ウマ科学会の講演や馬に係わるイベントなどを紹介しています。

ご入会受付中 <http://www.equinst.go.jp/JSES/>

日本ウマ科学会

日本ウマ科学会事務局
電話 028-648-5099

栃木県宇都宮市砥上町321-4 競走馬総合研究所内
FAX 028-647-0686